

米取引の事前契約研究会（第4回概要）

1. 日 時：令和2年3月25日（水）10：00～12：00
2. 場 所：農林水産省 統計部第1会議室
3. 要 旨：

事務局から中間取りまとめ（案）について説明後、意見交換を実施。以下のとおり、中間取りまとめ（案）に必要な修正を施し、公表することを了承。

【中間取りまとめ（案）に対する意見と修正点】

- 中間取りまとめの内容は、①事前契約を拡大していくこと、②特に生産者の意識を変えていくこと、③生産者から実需者までの結びつきを強めていくことに収斂しているため、全体としてはこれで問題ない。
- 副題（「～『選ばれる米』を目指して～」）について、生産者が高級な米やブランド米を作ることだと勘違いしてしまう懸念があるので、副題はそのままにして、「はじめに」において、「消費者に『選ばれる米』」としているところを「マーケットで『選ばれる米』」と補足することで、目指している方向性がわかるよう修正。
- 図1は、生産から実需までの流通の流れがよりわかるような図になるよう、記号含め修正。
- 4ページ「全国集出荷団体等・流通（米穀卸売）業者」について、「バッファ機能」という言葉は、米が余ったときに卸売業者が抱えて損失も負担すると誤解を招く可能性があるため、全国集出荷団体等・流通業者に期待されている①生産者と実需者双方向のニーズの伝達と②豊凶変動や需要変動が生じて計画通りにならなかった場合の調整という2つの機能によって、需要に応じた生産・販売システムを支えていることがわかるような書きぶりに修正。
- 4ページ「実需者（中食・外食、小売）」について、実需者が産地と直接契約をする際には、再生産可能価格は踏まえており、価格のみに言及して記載するのではなく、「生産者・産地の再生産を維持・継続する」ことを後押ししている趣旨になるよう修正。

- 研究会での議論を通じて、事前契約には興味はあるが、実際にお互いのニーズを共有し合える産地や実需をどうやって見つければいいのかわからないと思う関係者が多いのではないかと感じた。産地と実需との結びつきの新しい構築方法を見いだせば、もう少し米のマーケットも活性化するのではないか。国にはその点でも支援をお願いしたい。